意見交換会実施報告書

令和元年８月２７日

赤穂市議会議長　様

総務文教委員会
委員長　汐江　史朗

委員会は、下記により意見交換会を実施したので報告する。

記

開催日時	令和元年８月２０日（火）　１８時３０分　～２０時００分
開催場所	赤穂市役所６階　第２委員会室
意見交換会テーマ	あこうの子どもの育ちを考える
出席委員	代表者：汐江　史朗　　田渕　和彦 司会者：西川　浩司　　山野　　崇 記録者：前川　弘文　　釣　　昭彦
相手方団体名 及び参加者数	あこうの子どもの育ちを考える会　　７名
主な意見等	・子どもの育ちを考える会は、子どもの育ちを様々な視点からサポートできるように、子どもの生活と育ちを楽しく学び合いながら応援していくことを目的としている。 ・どの子も地域や学校で生き生きと自立した生活を送ることができるようになることを願い、リハビリテーション等の専門職による視点から学び合い、子ども・保護者・指導者がともに成長できる活動を目指している。 ・アフタースクール等、子どもが集団で過ごす場での様々な問題が増えている。（最後まで話が聞けない。椅子に座っていられない。すぐにキレる。等） ・医療・福祉・教育が一丸となった取り組みと、相談窓口の一元化が必要である。 ・このような発達障害やその疑いのある子どもたちをはじめとして、学習や生活場面での過ごしづらさを抱えている子どもたちへの関わりに悩みや疑問を持っている。 ・学童期以降は、リハビリテーション専門職からの支援の機会が激減する。

	・そのために、子どもの領域で働く作業療法士や理学療法士、言語聴覚士などの専門職の視点からのアプローチが必要である。 ・岡山県で、岡山県学童保育連絡協議会と岡山県作業療法士会がタイアップして取り組んでいる。結果、好事例が出ており、全国的にも展開されてきている。 倉敷市、明石市では、アフタースクール（放課後児童クラブ）において作業療法士のコンサルを開始している。 ・城西アフタースクールで、作業療法士に勤務外や休日にボランティアで来ていただき、気になる児童の支援の仕方について学んだ。７月１２日に「人・環境・活動」の３つの視点から細かいところまで観察し、分析し、対応策をまとめた報告書を作成していただいた。支援員は、専門家による具体的で正しい指導により、日々の緊張から気持ちが楽になり、自信を持って日々の児童支援ができるようになった。 ・アフタースクールだけでなく、幼稚園、小中学校、児童館など子どもの指導に関わるところ全てに専門家が入ることの必要性を感じている。 ・会を運営する上での課題として、会の実行委員会に行政職（教育・福祉）が入っていないため、それぞれの立場からの意見を取り入れることが難しい。実行委員はボランティア精神に委ねられ、会の運営や継続性に不安がある。 ・要望として、 ①行政職として子ども支援に特化した作業療法士を配置する。 ②行政から病院・施設にいるリハビリテーション専門職などに委託できるようなシステムを作る。
委員会のコメント	・この度の意見交換会で、子どもが集団で過ごす場での様々な問題や支援員のご苦労を伺った。施設整備も含めて、赤穂市のアフタースクールの実態調査を行う。 ・アフタースクールにリハビリテーション専門職が関わり支援している先進地に赴き調査研究を行う。 ・市長に対して、アフタースクールの実態調査からの改善要望、先進地の調査研究の報告及び要望を行う。